

後藤昭夫 回顧展 — 1960年代を中心として

後藤昭夫さんは、1928年に関市に生まれ、学生時代から絵画をはじめ、関市職員として勤務する傍ら、作品制作を続けてきました。1959年、関市の前衛芸術家集団VAVAの結成に、西尾一三さん、石原ミチオさん、小本さんらと参加。その後、VAVAグループ展の開催や国内外の個展で意欲的に作品発表をし、1966年には第10回シエル美術展で三席に入賞するなど、郷土関市を拠点に、全国に向けて活発な活動を展開してきました。

1960年代、ビニール紐を使った立体的な作品「テンション・アート」を発表。四辺から張った紐の単純な線が、光を反射し、幾何学的な美しさを作り出す「テンション・アート」シリーズは、当時の美術界

で高い評価を得、後藤昭夫さんの代表作となりました。今展では、行動展入選を重ねていた初期の油彩作品から、「碍子シリーズ」、「テンション・アート」までをご紹介し、独自の作品を提示しつづける後藤昭夫さんの1960年代までの歩みを辿ります。

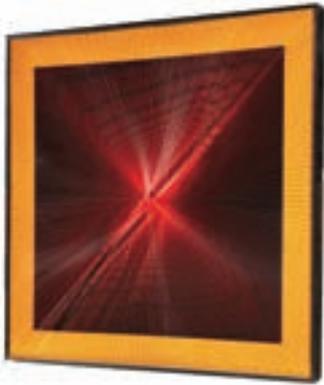
● 会期：4月10日(火)～5月27日(日)

● 入館料：高校生以上300円・中学生以下無料

● 休館日：月曜日(休日を除く)、休日の翌日(土・日・休日を除く)

● 開館時間：午前9時～午後4時30分

● 照会先：篠田桃紅美術空間(市役所7階) ☎7756



掲載図版 「テンション・アート 12」  
1966年

ひとひと  
女と男

ともに自分らしく生きよう

男女共同参画社会

vol. 91

「イクジィ」ってなあに？

積極的に率先して育児をしたり、楽しみながら育児するパパを「イクメン」と呼び、この言葉が流行しました。最近では、育児を手伝うおじいさんが「イクメン」をもじって「イクジィ」と呼ばれているそうです。

先日、東京都内のあるNPO法人が主催する育児の実技実習の様子がテレビで放映されました。そこでは、多数の「イクジィ」が赤ちゃんのあやし方、沐浴の仕方、おむつの交換方法、ミルクの作り方などを習っていました。彼らは、ぎこちない手つきで実習を受けながらも、とても楽しそうでした。実習を受けた「イクジィ」の一人が、「現役の時、仕事ばかりで家庭のことや子どものことは妻に任せきりだったが、退職して時間ができた今、家事や孫育てをやってみようという気がわいてきた」と話していました。

あちこちに「イクジィ」が増えることを願っています。



さんかくサポーター<F>

<照会先>さんかくサポーター事務局(市民協働課内) ☎23-6831